

現場の課題にお答えします!



はつ だ たかし
初田 隆

小学校教員養成特別コース教授

美術教育に関する国際的な賞を連続受賞した福本副学長を表彰

福本謹一理事・副学長は、一昨年、国際美術教育学会のエル・バシオーニ賞(功労賞)を受賞(日本人初)し、今年3月には米国美術教育協会のジークフェルド国際賞を受賞(日本人研究者としては2人目)した。この功績は兵教大にも大きな名誉であることから、福田光完学長から表彰状の授与と記念品の贈呈が行われた。



加治佐前学長、草野教授が兵庫県功労者表彰を受賞

5月、加治佐哲也前学長、草野次郎教授(芸術系コース)が平成28(2016)年の兵庫県功労者表彰(教育功労)を受けた。加治佐前学長は「兵教大と県の長年の連携が評価されての受賞だと思えます。今後も、県との関係がより充実することを願っています」、草野教授は「30数年前に着任以来、兵教大の学生から多くを学ばせていただきました。感謝です!とそれぞれ喜びを語った。



兵庫県立美術館とのキャンパスパートナー協定を締結

兵教大と兵庫県立美術館(養豊館長)は、教員養成教育の充実と芸術文化の振興のため、キャンパスパートナー協定を締結した。同協定により、兵教大の学生・教職員は学生証等の提示で、同館の県美プレミアム展(常設展)の無料観覧や特別展観覧料の割引サービスが受けられることとなった。



絵の描けない児童の指導はどうしたらいいですか。

しばしば話題となるテーマですが、「絵の描けない児童」とは、随分失礼な言い方だと思いませんか。絵が描けないという思い込みと、目標とする絵について、考え直してみてもいいかがでしょうか。

図1は小学6年生の「組体操」を描いたイラストです。どちらかというとい印象を受けますが、どこを褒めたいかと思えますか。肩車されている人物の足に注目ですね。図2と比べると分かりやすいと思えますが、膝の曲がり具合と重なり表現の工夫が見られます。これはかなり高度な表現といえます。

では、図3はどうでしょう。「大玉ころがし」を描いたイラストですが、棒人間でお茶を濁すなど、描画への自信の無さが感じられます。しかし、大玉に注目してみると、大玉の重なりによって遠近感が表現されていることが分かります。視点を変えて見てみると、絵の印象が変わってきます。こういう点を確認、励ますことで、子どもに自信を与えられるかもしれません。ほとんどの子どもは、その子ならではのこだわりや工夫が秘められているのです。みんな同じように写實的に描かせるというのではなく、一人一人の

子どもの発達段階や個性に着目し、認め励まし、良さを引き出すといった教員(親)の姿勢が求められると思います。ただし、どうしても絵が苦手という子ども(大人も)もいます。見えるままそっくりに描くということを目標とする限り、限界があるのも事実です。しかし写実画だけが美術ではありません。抽象的な表現や自分なりの表現方法で自由に描くこと、描くのは苦手でも美術鑑賞を楽しむことも感性や想像力を育む上ではとても重要です。むしろそのことが、図工・美術の本当の目標なのではないでしょうか。

キャンパストピックス

QUESTION & ANSWER



図3 大玉ころがし・小6



図2 組体操・小6



図1 組体操・小6